
改築する三大水門の景観検討方針について

●河川空間の利活用(三大水門関連部分の抜粋)

三大水門(安治川水門・尻無川水門・木津川水門)の改築にあたっては、水門の周辺状況を考慮し、現水門同様に地域のシンボルとなるデザインとするなど、良好な河川景観形成を図ります。また、さらなる発展が見込まれるベイエリアと大阪の中心市街地を結ぶ舟運の中間に位置することから水都大阪の水辺空間などまちの賑わいのある河川景観の形成にも配慮します。

特に、安治川筋は、水都大阪の中心である中之島エリアと2025年に開催が決定した大阪・関西万博の会場である夢洲を含むベイエリアとを結ぶ主要な舟運ルートとなり、今後、周辺部でさらなる舟運の活性化が予想され、眺望景観及び夜間景観の魅力を高める取り組みが求められています。



三大水門設計条件

- 三大水門の改築に係るこれまでの検討経緯を踏まえ、新水門の景観設計検討時においては、以下の項目については、決定事項とする。
 - ① 水門位置は現水門の直上流とする。
 - ② 引上げ式構造ローラーゲートの2門形式とする。
 - ③ 扉体はステンレスのため、塗装はしない。



木津川水門基本検討時におけるイメージ図

○三大水門の景観検討の基本方針

【役割】

高潮・津波被害から防御し、住民の安全・安心を確保する。

【景観形成の目標】

- 後世に遺産として残る優れた社会資本となるように「永続性、公共性、環境性」を意識した構造物とする
- 水門の周辺状況を考慮し、現水門同様に地域のシンボルとなるよう配慮する。
- 水都大阪など、まちの賑わいのある河川景観の形成にも配慮する。

【検討条件】

- 新水門の建設位置は現水門の直上流とする。
- 新水門の形式は、引上げ式構造ローラーゲートの2門形式とする。
- 新水門の扉体材質は、ステンレスで塗装はしないこととする。



水門ごとに周辺環境やまちづくり計画が異なる

○検討の進め方

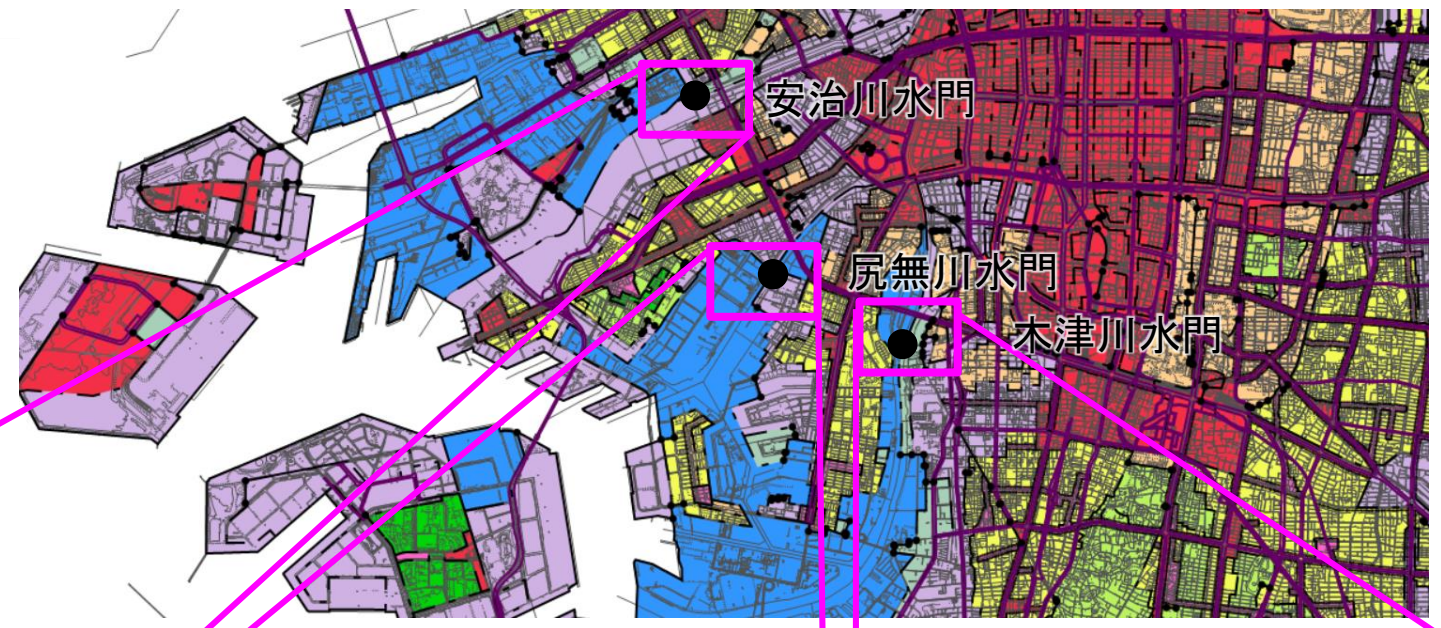
水門ごとに景観形成のコンセプトや配慮すべき事項を決定する。

検討は、各水門の寿命を考慮し、木津川水門、安治川水門、尻無川水門の順に実施する。

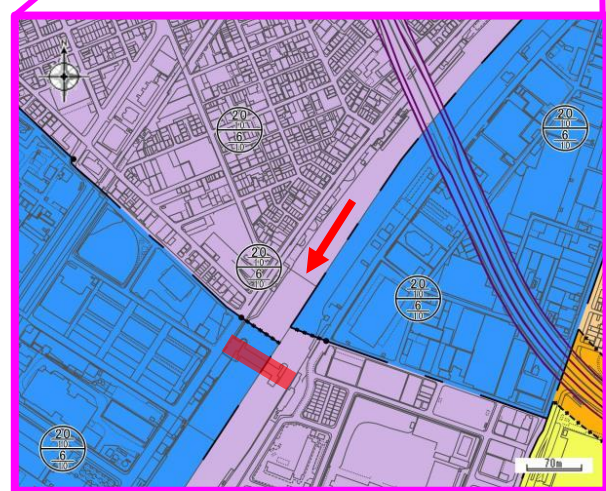
- 水門周辺は、工業地系地域が主であるが、安治川水門のみ商業地域が近接している。

【都市計画】

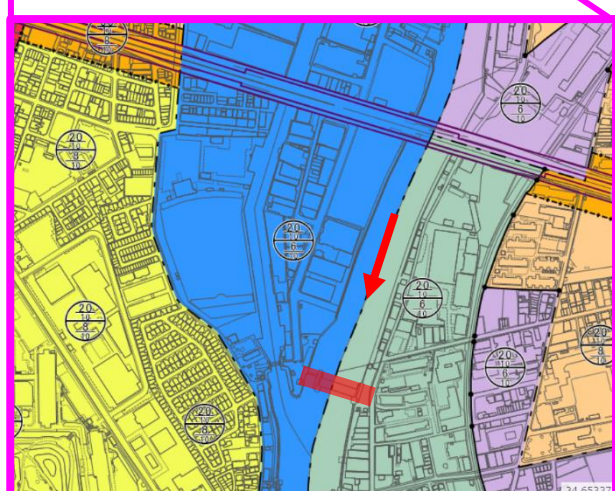
- 用途地域
- 第1種中高層住居専用地域
 - 第2種中高層住居専用地域
 - 第1種住居地域
 - 第2種住居地域
 - 準住居地域
 - 近隣商業地域
 - 商業地域
 - 準工業地域
 - 工業地域
 - 工業専用地域



安治川水門



尻無川水門



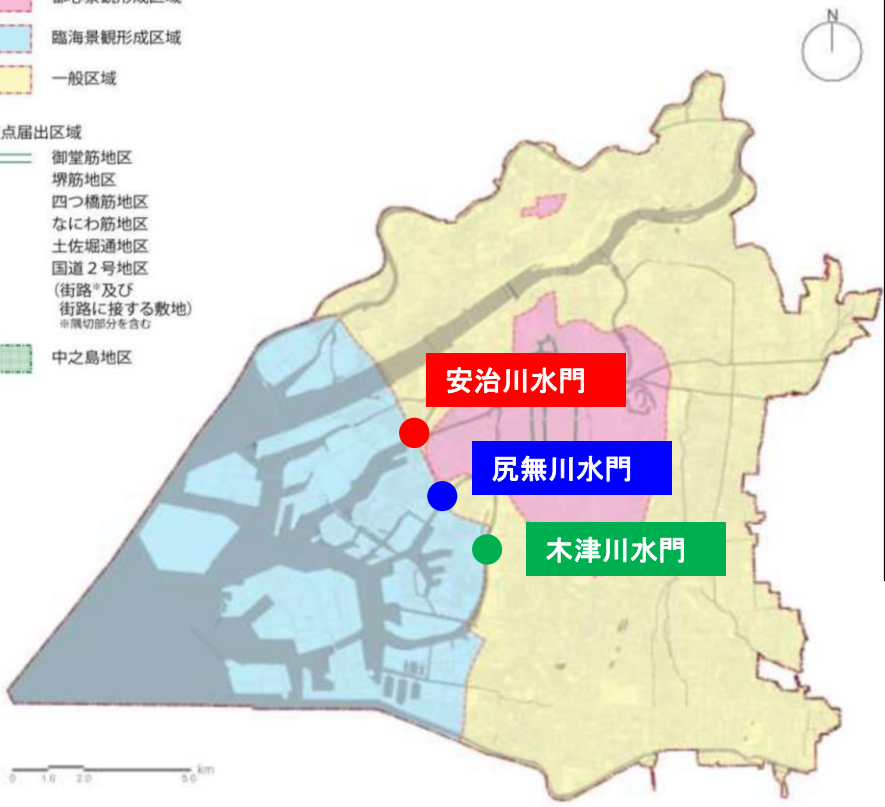
木津川水門

上位計画及び関連計画の把握（2） 景観計画

- ・「大阪市景観計画(令和2年3月)」では、市域全体を景観計画区域として定め、「基本届出区域」「重点届出区域」により構成し、地域特性に応じたきめ細やかな景観形成を図ることとしている。
- ・三大水門は「基本届出区域」の「臨海景観形成区域」「一般区域」の境に位置する。
- ・景観計画区域に加え、地形や市街地構造等の景観特性に配慮した景観形成を求めるゾーンを景観配慮ゾーン」と位置づけ、安治川、尻無川、木津川は「河川景観配慮ゾーン」に位置する。

景観計画区域図

- 基本届出区域
 - 都心景観形成区域
 - 臨海景観形成区域
 - 一般区域
- 重点届出区域
 - 御堂筋地区
 - 堺筋地区
 - 四つ橋筋地区
 - なにわ筋地区
 - 土佐堀通地区
 - 国道2号地区(街路*及び街路に接する敷地)*隣切部分を含む
 - 中之島地区



○臨海景観形成区域にける景観形成方針

- ・開放的でうるおいのあるウォーターフロント景観の形成
- ・大規模土木構造物や建築物からなる港らしい景観の形成
- ・豊かな暮らしの魅力を感じさせる心地よい生活景観の形成
- ・緑豊かなうるおいある市街地景観の形成
- ・地域の特性に応じた夜間景観の形成
(橋梁等の公共施設については、光のまちづくり推進委員会の取り組みを踏まえ、魅力とにぎわいに満ちた夜間照明の創出に努める。)

○一般区域における景観形成方針

- ・豊かな暮らしの魅力を感じさせる心地よい生活景観の形成
- ・緑豊かなうるおいある市街地景観の形成
- ・地域の特性に応じた夜間景観の形成
(夜間照明においては、住宅地では生活に安らぎを与える配慮、歴史的景観資源の周辺ではそれらとの調和、駅前や幹線道路沿道の商業地では活気・にぎわいと秩序との共存など、それぞれの場所の特性に応じた夜間景観の形成に努める。)



○河川景観配慮ゾーン(河川より50m付近)

景観上骨格となる河川及び河川沿川のまちなみについて、対岸、橋上及び水上からの見え方に配慮した景観形成を図るゾーン

↓
対岸、橋上及び水上からの見え方を意識

- さらに、安治川においては、水辺の魅力を高める眺望・夜間景観の創出に配慮することが求められている。

大阪市景観計画 変更のポイント（大阪らしい眺望景観・夜間景観の形成に向けて）

1 趣旨

今回の変更は、大阪らしい眺望景観及び夜間景観の形成に向けた提言（大阪市都市景観委員会、平成 31 年 3 月 29 日）を受けて実施するものです。

2025 年に開催される大阪・関西万博や御堂筋での空間再編事業、LED といった照明技術の急速な進歩などを背景として、大阪の魅力を世界に発信する絶好の機会と捉え、現状の大阪市景観計画を軸に眺望及び夜間景観の形成方針・基準を充実し、市内各所に新たな「名所」を創出することで、市民のシビックプライドの醸成を図り、より優れた景観を創りだし、本市の景観をより魅力的なものにしていくことを目的に変更を行いました。

2 景観計画の変更点

（1）大阪を代表するエリアを対象にした眺望景観・夜間景観形成の誘導

古くから市民が誇りとする魅力的な眺めが生み出された大阪城公園周辺及び中之島、また大阪の魅力を世界に発信する絶好の機会を有したベイエリアにおいて、景観読本に示した主要な視点場からの眺望・夜間景観を重点的に誘導します。誘導にあたっては、大阪らしい「眺望景観の典型的な 3 つの眺め」や「夜間景観の典型的な 4 つのあかり」に沿って、景観形成方針や基準を充実しています。

眺望景観の典型的な 3 つの眺め



夜間景観の典型的な 4 つのあかり



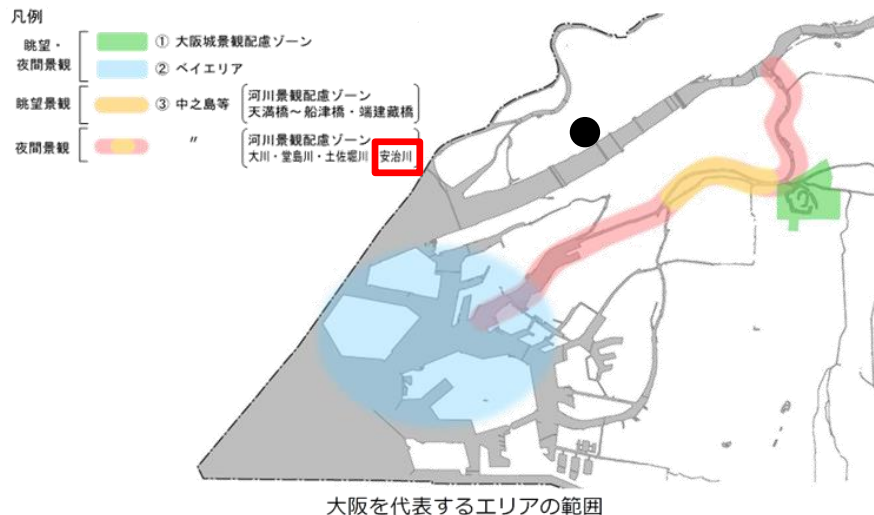
② ベイエリア（港らしい眺望・夜間景観の創出）

景観読本に示したベイエリアの主要な視点場からの眺めについて、ランドマークとなる大規模建築物による魅力的なシルエットや周囲の建築物や眺望を意識したスカイラインの形成を創出するよう、外壁、付属設備（広告物）基準を充実しました。また、水面への映り込みを意識した大規模建築物等による港らしい夜間景観を創出するよう、夜間景観基準を充実しました。

③ 中之島等（水辺の魅力を高める眺望・夜間景観の創出〔水辺の印象的な顔づくり〕）

既存の「河川景観配慮ゾーン（天満橋～船津橋・端建蔵橋）」について、水辺側に建築物のファサードを向けるなど、水辺の魅力を高める眺望景観を創出するよう、配置、1 階部の形態、外壁、色彩、付属設備（広告物）及び植栽基準を充実しました。また、「河川景観配慮ゾーン（大川・堂島川・土佐堀川・安治川）」について、水面への映り込みに配慮した照明を施すなど、水辺の魅力を高める夜間景観を形成するよう、夜間景観基準を充実しました。

※今回、届出対象行為の変更は行っていません。



上位計画及び関連計画の把握（3） 水都大阪

- 水都大阪水と光のまちづくり構想では、中之島西部～安治川、大阪ドーム周辺（尻無川）において、既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始することとされている。

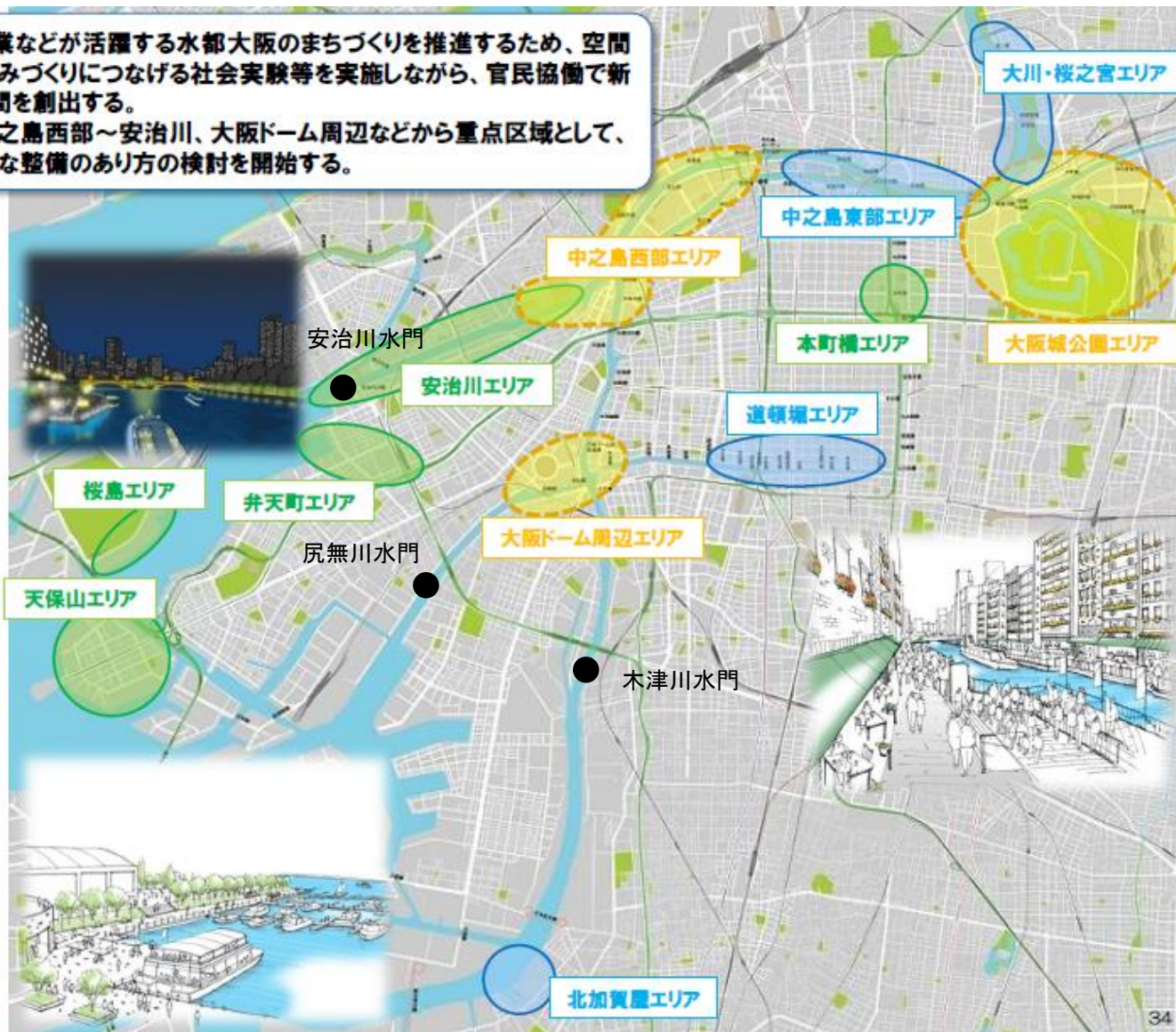
○市民・地域・NPO、企業などが活躍する水都大阪のまちづくりを推進するため、空間の利活用ルールや仕組みづくりにつなげる社会実験等を実施しながら、官民協働で新しい大阪のシンボル空間を創出する。

○新たに大阪城公園、中之島西部～安治川、大阪ドーム周辺などから重点区域として、既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始する。

既に形成されつつある都市デザインに、さらに魅力ある物語を生み出すエリア

新たな都市デザイン形成も含めて、まちをつかい、魅せる人々を生み出すエリア

のうち、水都大阪の資源が集中し、重点区域として検討を開始するエリア



上位計画及び関連計画の把握 (3) その他

安治川筋では、今後3地区で再開発が計画されている。

現三大水門は、日本唯一のアーチ型防潮水門として、多くの地域住民が見学に訪れ、大阪ミュージアム や都市景観資源（尻無川除く）に登録されるなど、地域のシンボルとしても親しまれている。



○大阪ミュージアム(平成21年1月27日 登録)
安治川水門、尻無川水門、木津川水門

○都市景観資源
安治川水門 : 港区 都市景観資源(平成23年7月登録)
木津川水門 : 大正区 都市景観資源(平成24年3月登録)



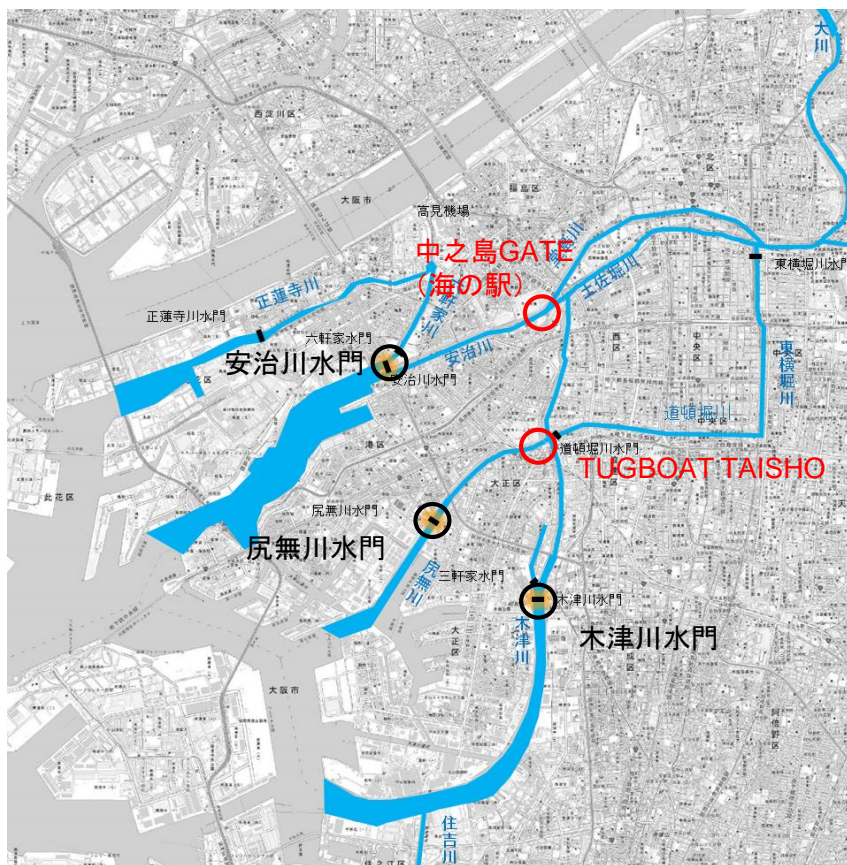
大阪ミュージアム登録シール

大阪市再開発の予定地区

- *1 都市景観資源
 - 大阪市では、景観的に優れた、新しい建物や歴史的建造物、橋や樹木等はいずれも、地域の景観を特徴づける重要な役割を担っており、こうした景観形成上の大切な資源を、一人でも多くの方々を知っていただき、地域の景観づくりの中で積極的に活用していただくため、所有者との協議もふまえながら、都市景観資源として登録している。
- *2 大阪ミュージアム
 - 大阪府では、『「明るく」「楽しく」「わくわく」するまち・大阪』を実現するため、まち全体を「ミュージアム」に見立て、魅力的な地域資源を発掘・再発見し、磨き・際立たせ、結びつけることにより、大阪のまちの魅力を内外に発信する「大阪ミュージアム」を推進している。

三大水門を取り巻く周辺状況（1）

- 安治川では、上流部において平成29年に都心部では初となる海の駅「おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅」が開業されている。
- 尻無川では、大正区によって水辺空間を活用し、令和2年1月ににぎわい創造拠点「TUGBOAT TAISHO(タグボート大正)」がオープンしている。



中之島ゲートエリア

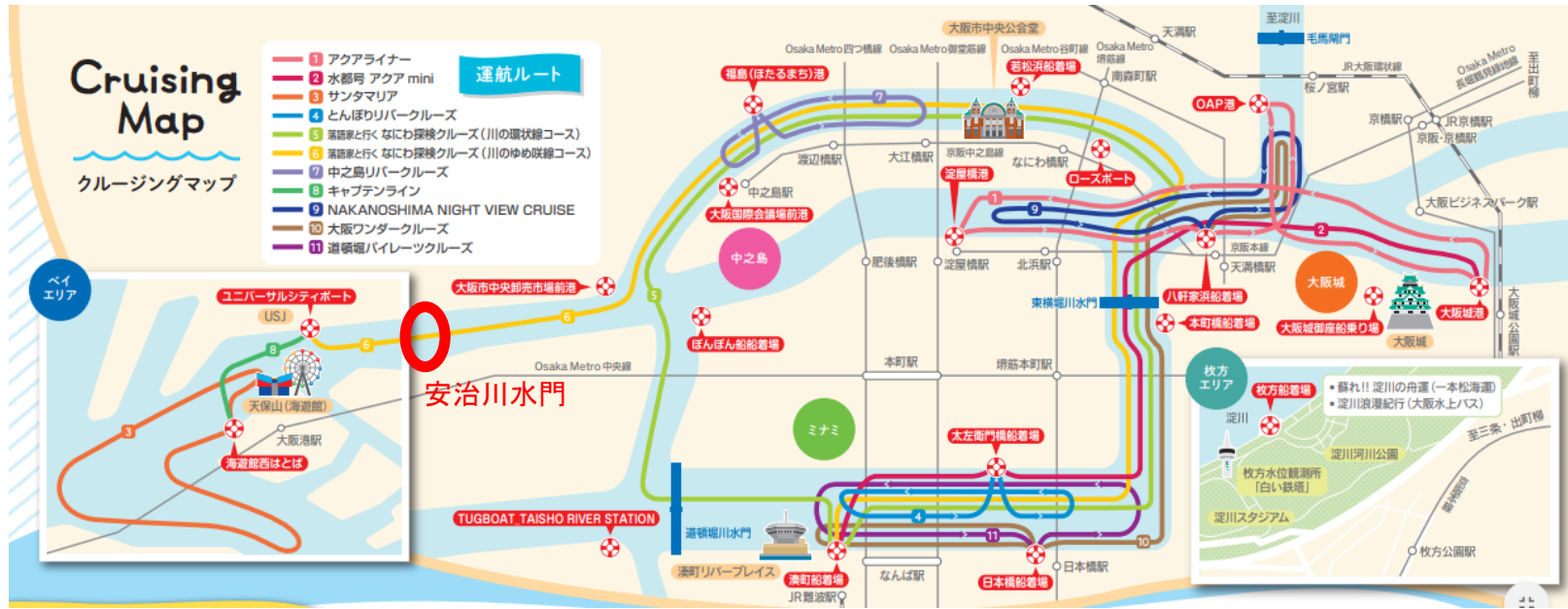


TUGBOAT TAISHO イメージパース

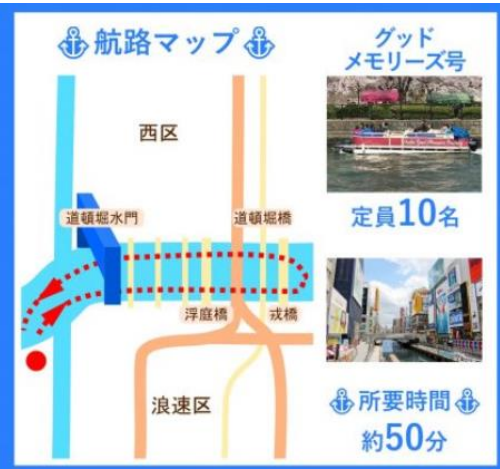
TUGBOAT TAISHO(タグボート大正): フードホール、台船レストラン、水上ホテル、ライブステージ、ワークショップ、イベントスペース、スクール、SUP、川の駅を設置した複合施設
(令和2年1月はフードエリア、ライブスペースのオープン)

三大水門を取り巻く周辺状況（2）

- 航路は、中之島東部から大川の桜ノ宮、大阪城港と道頓堀川エリアに集中している。
- タグボート大正から新たに木津川水門までの航路が設けられ、今後は夢洲へ向かう航路も構想されている。



クルージングマップ(水都大阪ぐるっとマップより)



TUGBOAT TAISYOクルーズコース(HPより)

三大水門を取り巻く周辺状況（3）

- 大阪のベイエリアは2025年日本国際博覧会開催やIRを含む国際観光拠点形成に向け、夢洲地区の整備が計画されている。
- 舟運については、夢洲という新たな目的地による新航路の設定や船便の増強による利便性向上が検討されており、安治川はベイエリアと中之島エリアを結ぶ東西軸として重要度が増している。

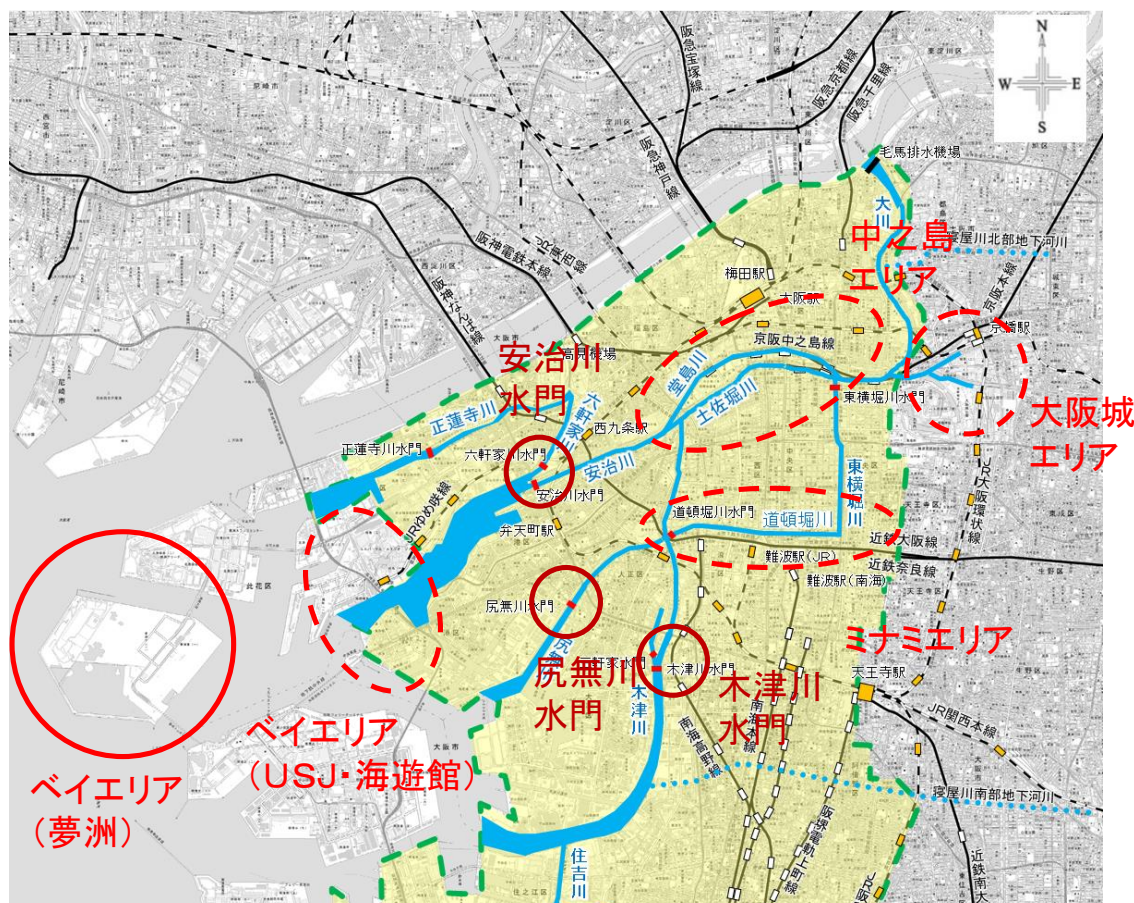
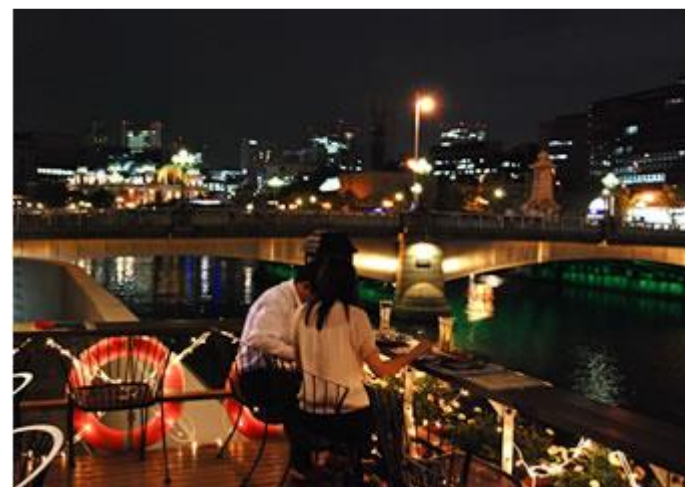


図 大阪市内中心部とベイエリア



北浜テラス(中之島エリア)



道頓堀川のにぎわい(ミナミエリア)

三大水門周辺の現状のまとめ

	木津川水門	安治川水門	尻無川水門
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・工業地域 ・工業専用地域 ・第一種住居地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域 ・工業専用地域 ・商業地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域 ・工業専用地域 ・第一種住居地域
景観計画	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。 ・水辺の魅力を高める眺望・夜間景観の創出に位置付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。
水都大阪による位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・目立った計画は無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水門を含む安治川エリアにおいて、水都大阪のシンボル空間として既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始することとされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪ドーム周辺(尻無川)において、水都大阪のシンボル空間として既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始することとされている。
舟運	<ul style="list-style-type: none"> ・尻無川にぎわい創出拠点から木津川水門への遊覧船が運航している。 ・ベイエリアの整備に伴う新たな計画はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイエリア～中之島～道頓堀川の遊覧船が運航している。 ・日本国際博覧会やIRに伴うベイエリアの整備により、舟運の活性化が期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、遊覧船は運航していない。 ・尻無川にぎわい創出拠点から夢洲へ向かう航路が検討されており、日本国際博覧会やIRに伴うベイエリアの整備により、舟運の活性化が期待されている。
再開発等周辺状況	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺でのまちづくり計画はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水門付近の弁天埠頭において再開発が計画されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに大阪ドーム周辺でにぎわい創出拠点が整備されている。
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・木津川駅(南海 汐見橋線:徒歩15分程度) ・利用者は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁天町駅(JR 環状線:徒歩15分程度) ・利用者は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁天町駅(JR 環状線:徒歩30分程度) ・利用者は多い。
総括(将来性)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と大きな変更はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイエリアと市内中心部を結ぶメインの舟運ルートで、周辺での再開発計画もあり、ポテンシャルは高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舟運関連では、活性化される可能性がある。

	木津川水門	安治川水門	尻無川水門
役割	高潮・津波被害から防御し、住民の安全・安心を確保する		
景観形成の目標	①後世に遺産として残る優れた構造物とする ②現水門同様地域のシンボルとなるよう配慮する ③水都大阪など、まちのにぎわいに配慮する		
賑わいに対する将来性	現状と大きな変更はない	舟運の活性化 周辺再開発との連携	舟運の活性化
景観方針	安全安心のシンボル	安全安心のシンボル (水都大阪やまちづくり計画も考慮)	安全安心のシンボル (水都大阪を考慮)
検討の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ● 本部会において、景観設計上のコンセプト及び配慮すべき事項を作成する。 ● 作成したコンセプト及び配慮すべき事項について住民意見募集を実施する。 ● 住民意見募集結果を踏まえ、本部会において、コンセプト及び配慮すべき事項を決定し、景観設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、広くアイデアを募集するアイデアコンペの開催を検討する。 ● アイデアコンペの結果も参考に本部会において、景観設計上のコンセプト及び、配慮すべき事項を決定し、景観設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行する木津川水門と安治川水門の検討手法を参考にしつつ、最新の周辺状況を踏まえ、景観設計の進め方を検討する。